

新連載<1>

国を滅ぼす地方自治体首長列伝

今、地方の首長が注目されている。ガソリン税維持に賛成署名したり、政界再編を見越して、政策集団「せんたく」を立ち上げたりしているからだ。怪しげな地方の首長の正体――。

昨年1月、与党候補を破って、宮崎県知事に当選した東国原。その豹変ぶりを象徴していたのが、今月7日、宮崎市で行われた賞詞交換会の挨拶だ。



東国原宮崎県知事

「パーティーを開いたのは自民党の中山成彬衆院議員。そこに呼ばれた東国原知事は『中山先生にバツジをつけていたなきたい』と応援挨拶をしたのです(自民党関係者)」。昨年5月には自民党の県連大会に出席し、「日本の繁栄と平和は自民党の尽力によるもの」と語った。無党派層の風を受けて当選したのに、今や、すっかり自民党応援団だ。

●

そんな東国原が「ガソリン税維持の旗振り役になつている」。

「ガソリンが下がるとですね。道路は穴ぼこだらけ、芝がポーポーで橋も老朽化して、橋も渡れない。これでは(ガソリン)が下がっても(車)を持っている意味がないんですね。ガソリン税の上乗せがカットされると、生活も困窮する、医療福祉にもお金が回せなくなる。夕張市がいつぱい出てくるんです」(今月8日、新宿での街頭演説)

これだけ特定財源の無駄が明らかになっているのに、「(道路を造らないう)地方は生活できない」という。脅し、説法。で、東国原が猛烈に肩入れしているのが東九州自動車道と九州横断道路の建設だ。

「東九州自動車道(北九州市―鹿児島県加治木町)はほぼ並行して国道10号が走る宮崎では無駄な道路と言わざるを得ません。しかも、東九州自動車道は1,770億円もかかる。このルートを山側にずらせば、コストが半分以下で済む部分もある。専門家の試算もあるのに、東国原知事は聞く耳を持たずとしない。九州横断道は、小泉政権時代に検討対象にすらならずに建設中止になった区間です。九州にはすでに東西をつなぐ高速道路が2本もある。それなのに3本目を造り、山をぶち

いつ公務をやっているのか？

抜くトンネル工事をするのです。東国原知事は建設促進協議会の会長です(ジャーナリスト・横田一氏)

東国原は会見で、県民はガソリン値下げよりも高速道路建設を望んでいるみたいと言っている。いや、それがそれを裏付けるデータはない。いい加減を絵に描いたような男だ。

東国原のテレビ出演の多さにも呆れる。東京マラソンにも出ていたが、昨年1年間の出演本数は約450本。公務だったのは半分、あとはプライベートだ。タレント時代に比べて、ギャラは10分の1になったというが、それでも出演料などの雑収入は「ざっと2000万〜3000万円(本人)という。今年は一出演を控える」と言っていたが、マラソンに出たりで、露出は増えている。これじゃあ、公務をやる暇もないだろう。県の広報課報道担当にテレビに出るかどうかの判断基準を聞いたが、「宮崎県のPR、知名度アップにつながるかどうか」。この基準なら、何でもありだ。自民党のPR屋にギャラまで払って電波を提供しているテレビ局も許しがたい。

TVに出ずっぱりで

自民党のPR

●1957年生まれ、50歳。
●専大経卒、その後芸能界入り、それから早大第二文学部卒、早大政経中退。